慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	遊部, 久蔵
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.3 (1952. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19520301-0079

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

俠つて、乘組員の生活不安を增大させ、ロシュフォールに勃發した一七〇六年の騷擾を經て、一七〇九年と一二年との兩年に困窮は絶頂に達し、家具や衣服を賣拂つて生活費に充當する者、無錢飲食する者・掠奪暴行を事とする者が相當數あつて、人心の混亂が殊に甚だしかつた上に、離職者も續々と出て、國防は正に危機に瀕した。このためツーロンやダンケルクの諸港においては特に早くから囚人が使役されてゐたけれども、御用商人の頻繁な背任行爲に依り、更には更生施設の不備が祟つて、彼等の生活も亦困難を極め、海上勢力の低下は豫想外に甚だしかつた。カナダ植民の將來を繞つて一部に强い樂觀論があつたとしても、第十七世紀末には早くも悲觀論が擡頭し、人口百五十萬を容易に收容することの可能な場所でありながら、植民地カナダが今後未開狀態を續けて行くのではなからうかといふ疑問が廣く抱かれた。事實その公算が相當に大であつた。物的基礎の不足に起因したかかる不安は、愛國心の缺如に依つて一段と深大化されたが、人心の收拾に當るべき司教の態度には眞劍味が至つて乏しく、植民地布教を斷乎拒否する者すらあり、第十八世紀初頭のフランスは物心兩面において總じて甚だしく不安定狀態にあつた。

丁度この時期にルイジアナ植民は開始されたのであつたが、本國には計畫を支援する實力が全くなかつたため、開發は甚だしく遲れてしまつた。更に本國の二倍にも達する植民地の高物價に依つて移住者の生活維持も相當困難となり、原住民の間に定住し得た少數の移住者を除いて、他は悉く四散し、ルイジアナ植民計畫の前途には實に暗澹たるものがあつた。

先づ補給の問題であるが、船舶不足のため萬事に支障が多く、集荷の困難も手傳ひ、容易ならぬことであつた。且つ酷暑のため積荷は多く腐敗し、穀物・野菜・肉の補給は圓滑を缺いたため、移住者は大抵の場合、原地產玉蜀黍に依存する以外になく、十分な榮養の確保は不可能であつたから、病人は續出し、開發に必要な人員の獲得は最初から至難であつた。このため一部に强制移住の計畫があつたが、財政的に無力な本國にとりこの實行は仲々の困難事であつた。從つて植民地ルイジアナは本國の援助を絶たれて全くの孤立無緣の狀態に置かれた。船材として重要なルイジアナ木材資源の開發についても、必要な勞働力が得られない儘に、遂に放置された。又農業についても、移住者の大部分が耕作に全く未經驗な人達であつたため、多くは失敗に歸してしまつた。ルイジアナ植民當初におけるかかる事情は、然し新大陸のフランス諸植民地の狀態と比較して餘程に殺伐であり、それは又ルイ十四世治下の本國の紊亂が齎らした不幸な結果でもあつたのである。

（渡邊國廣）

編集後記

最近、急の必要あつて、塾圖書館所藏のアダム・スミス著書及び研究書の目錄の作成に從事したが、かねてから豫想はしたものの、その數のおびただしいことにあらためて驚かされたことである。とくに『國富論』の原版や各種の版本の數において、たしかに世界的にほこるに足ると考えられる。

だが、それにしても經濟學はなんと進歩しない科學であることか？　今日においても經濟學はアダム・スミスのそれからどれほど隔絶していると云えるであろうか？　過日、先輩の一教授とこのことを語り合つて、しばし長嘆息しなければならなかつた。

スミスの體系について彼の死後、いろいろ批判や解釋が行われたが、基本的範疇や法則はいまだにいきいきと生きている。革命家マルクスは同時に經濟學史上の最大の變革者でもあつたが、彼の『資本論』は、その理論的素材を全くスミスに仰いでいると云えよう。ともかく經濟學の歷史においては、化學や物理の歷史にみられるような「革命」はみられないようである。

靜かにキャノンゲイトの靈場にねむるスミスは、その死後一世紀半を經て、いまだに彼の文獻目錄の作成にあくせくしなければならない日本の經濟學者たちを、その持ち前の寬容さから微笑を以てながめることであろうか？　あるいは特有の機智にあふれた一句を吐いて皮肉まじりの笑顏を以てながめることであろうか？

古書の寸法を物差ではかりながら、そんなことを考える。

（遊部久藏）

昭和二十七年二月二十五日印刷　第四十五卷
昭和二十七年三月　一　日發行　第三號

本號　定價　七拾圓
送料　四圓

禁　轉　載

編集兼發行者　東京都港區芝三田慶大經濟學部內　高村象平
印刷者　東京都港區芝三田豐岡町八　川口芳太郎
印刷所　東京都港區芝三田豐岡町八　圖書印刷株式會社

豫約購讀料一年分　金八四〇圓（送料共）
半ケ年分　金四二〇圓（〃）

豫約購讀料は發行所宛お拂込み下さい。
誌代變更の場合は精算決濟致します。
編集に關する用件、營業に關する用件、販賣申込も發行所へ願います。

發行所　東京都港區芝三田二丁目　慶應義塾大學經濟學部研究室內　慶應義塾經濟學會
日本出版協會員B一一一〇一六